

# 不活化ポリオワクチン予防接種の説明書

不活化ワクチン  
皮下注射

ポリオとは	<p>ポリオは「小児マヒ」と呼ばれ、日本でも1960年代前半までは流行をくり返していましたが、予防接種の効果で現在は国内での自然感染は報告されていません。ポリオは、ポリオウイルスが口の中に入って、腸の中で増殖することで感染します。増殖したウイルスは、便中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。ポリオウイルスに感染しても、多くの場合は明らかな症状はあらわれずに、一生抵抗力（終生免疫）が得られます。しかし、まれに腸管に入ったウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染が広まり、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が永久に残ることがあります。</p>
ワクチンの副反応	<p>注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛みなど）、発熱（37.5℃以上）などがみられることがあります。通常は一時的なもので、数日で消失します。極めてまれな重い副作用として、ショック、アナフィラキシー、けいれん、があります。</p> <p>予防接種を受けたあと、副反応がおこった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。その後、東大阪市保健所までご連絡ください。</p>
動物由来製品について	<p>このワクチンは、製造過程でウシの成分（米国、カナダ、およびオーストラリア産ウシ血清）が使用されています。この成分は健康なウシに由来し、製造工程で希釈、除去工程を実施し、理論的なリスク評価により、安全性の基準を満たすことが確認されています。海外においても、本剤接種により伝達性海綿状脳症（TSE）がヒトに伝播したとの報告はなく、伝播の危険性はきわめて低いものと考えられます。</p>
予防接種を受けることができない人	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 明らかに発熱している人（通常は37.5℃を超える場合）</li><li>○ 重い急性疾患にかかっている人</li><li>○ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）をおこしたことがある人</li><li>○ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた人</li></ul>
予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなければならない人	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人</li><li>○ 過去に予防接種を受けたとき、接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人</li><li>○ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人</li><li>○ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある人、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる人</li><li>○ このワクチンに含まれる成分にアレルギーをおこすおそれのある人</li></ul>
ワクチン接種後の注意	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。</li><li>○ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。</li><li>○ 接種当日は過度な運動を控え、1週間は体調に注意しましょう。</li><li>○ 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。</li><li>○ 接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。</li><li>○ このワクチンと他のワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。</li></ul>